

山梨中央ロータリークラブ

Rotary International District 2620
Yamanashi Chuo Rotary Club
2013-2014

会 長	田中 雅承	副会長	原田 哲
幹 事	樋貝 浩久	副幹事	田中 雅貴
会 計	田中 直行	会 報	原田 哲

事務所
〒409-3812 山梨県中央市乙黒 158-2
(山梨ビジネスパーク (株)カルク内)
TEL 055-273-5344 URL <http://yamachuo-rc.net/>
FAX 055-273-8010 E-mail rotary@yamachuo-rc.net

ロータリーを實踐し



みんなに豊かな人生を

2013～2014 RI会長 ロンD.バートン
第2620地区ガバナー 志田 洪顯
例会日・毎週金曜日 12:30～13:30
例会場・(株)カルク(055-273-5344)

Weekly Report

2013年 1月 10日 第1613回例会

本日のプログラム 新年祝賀例会

会長挨拶

「第25回ふるさとを描く子ども
も絵画展」開催にあたって

会長 田中 雅承

皆さん、お寒い所早朝より「第25回ふるさとを描く子ども絵画展」展示作業のご協力を有難うございました。

石原青少年奉仕委員長始め会員の皆さんが汗をかいて頂いております「第25回ふるさとを描く子ども絵画展」が本日より平成26年1月3日迄の7日間で行われますが、当クラブの一大事業で時間と手間の掛かる奉仕事業です。私は25年の月日の流れは大きく変わり新しい方向性も模索しなくてはと考えるのです。

本日は、天皇誕生日の祝日でもあり受賞者や保護者の方々も大勢お集まりになると思います。

表彰式は午後2時からです。大勢のご来場の方がお見えに成りますので進行上大変ご不便をお掛けする事に成ると思いますが、会員の方々にご協力を頂き式典がスムーズに行われる様お願い致します。

平成25年もわずかと成り会長として何か

を残さなくてはと考えた末、少数クラブとしての奉仕事業を振り返ってみて、会員の「存在意義」がしっかりしているからだと感じたのです。

年の瀬にお話しするにはふさわしいかどうか分かりませんが、お聞きください。

ご承知の様に当初、ロータリークラブは一業種ひとりが大前提でした、その時のロータリアンはクラブに於いて自己の立場から知恵や知識に従って、進んで奉仕行動をしていますし、現在も続いています。

先輩の指導的立場の方は率先して惜しみなく指導を買って出て、後輩のロータリアンがクラブに溶け込んで貰う事を願い自己の考えとして指導役に回っておられ、頭の下がる思いが致しました。

ロータリークラブの組織の中にあつて「使命」「価値」は必ず付いて回ります。クラブへ入会推薦も「誰々さんを推薦します」「誰々さんなら優秀なロータリアンになると思います」「誰々さんなら当クラブの期待にきっと応えてくれます」などと、ロータリアンに評価される人は、その組織に於ける存在意義が高い事を意味し、ご自分に与えられた奉仕事業に邁進する事が「存在を期待され」感謝と存在意義が自然に付いて廻るのだと教えられています。

幹事報告

幹事 樋貝 浩久

1. 第2620地区志田ガバナー事務所より「フィリピン中部地域大災害復旧義援金募集」について当クラブは皆さん全員の一致を確認致しましたので1名千円の義援金を送付致しました。ご協力有難うございました。
2. 本日は「子ども絵画展」の展示作業と「表彰式例会」が有り、早朝より県立美術館へご集合を頂き、展示作業を行いご苦労様でした。有難うございます。尚、表彰式は午後2時より行いますので表彰準備も宜しくお願い致します。
3. 平成26年1月10日(金)の例会は「新春例会」ですが通常時間に行いますので、宜しくお願い致します。
4. 例会変更のお知らせ

☆市川大門ロータリークラブ☆

1月1日(水)の例会は「年始特別休会」です。

1月8日(水)の例会は「新年互礼会」の為 会場の変更

点 鐘：午後12時30分

会 場：「あさひセンチュリーホテル」

☆山梨ロータリークラブ☆

1月1日(水)の例会は「早朝礼会」です。

☆甲府南ロータリークラブ☆

1月14日(火)の例会は「新春例会」の為 会場の変更

点 鐘：午後12時30分

会 場：「稲積神社」

12月28日(火)の例会は「創立55周年記念例会」の為 時間の変更

点 鐘：午後3時

会 場：「古名屋ホテル」

前回の例会記録

第1612回 出席報告

会員数	免除	出席者	欠席者	出席率	メイクアップ	前回の修正出席率
11名	0名	11名	0名	100%	2名	100%

届出欠席者 なし

届出失念者 なし

出席免除者 なし

メイクアップ 竹野 満君 原田 哲君

ビジター なし

備考 なし

ニコニコBOX なし

「随想」 妻のために生きる(3)

塩崎 岡司先生

一緒に会社を立ち上げた仲間たちが次々に他界したことで人生に無常観を覚え、経営の重責からも逃げたいと感じるようになっていたのです。

私が入院した三か月間、妻は毎日病院に足を運んでくれました。その一方で、私が職場から欠けた分、もともとの経理の仕事に加えて経営全般を必死に支えてくれました。脳梗塞になったのも、きっと心労によるものだったに違いありません。

ベッドで寝たまま言葉も発せられない妻の姿を見ながら、私は「これからは妻のために生きよう」と心に決めました。小さな会社でしたが、社長は後進に譲って会長職に退き、可能な限り多くの時間を妻のために使うことにしたのです。

(次回へつづく)

次回のプログラム 1月17日(金)

クラブ協議会

下半期について